



シャベルを上手に使って苗を植えました

3もがわ ハロウィン祭りに
あゆみ園とかぼちゃを楽しむ会の交流事業

衣川かぼちゃを楽しむ会（木村高志会長）主催の「あゆみ園とかぼちゃを楽しむ会の交流事業」が5月27日、とうほくニュージラード村を会場に行われました。農業の楽しみを子供たちに伝え、地域交流を深めようと企画されたこの事業。あゆみ園の年長組25人が参加し、秋のハロウィン祭りでランタンにするカボチャの苗を植えました。参加した園児は「土が硬くて難しかったけど、楽しかったよ」と、土に触れる楽しさを感じていました。

いさわ 早乙女が集う古ため池の春
内田ため池「田んぼの学校」田植え

胆沢区若柳の内田ため池周辺で5月24日、「田んぼの学校」の田植えが行われました。ことしで10年目を迎えるこの行事。農作業を通じて自然環境の大切さなどを学ぶことを目的に、昔ながらの農法で米作りを行っています。小学生や地元住民のほか岩手大学の学生が参加し、女子学生は早乙女姿を披露しました。「ことしで3年目。慣れてきたかな」と語る中村咲恵さん（岩手大3年）。その言葉通り、速さと美しさを競う田植えレースでは、早乙女隊が総合1位に輝きました。



岩手大学ため池サークルの女子学生からなる「早乙女隊」



クジラに色を塗ります「お姉ちゃんと同じ色がいいな」

まえざわ 前沢にクジラがいたんだよ
マエサワクジラのぼりをつくろう！

体験事業「マエサワクジラのぼりをつくろう！」が5月4日、5日の両日、牛の博物館で開催されました。こどもの日の開催とあり、2日間で親子連れなど51名が参加しました。館内では同区生母で500万年前の地層から出土したマエサワクジラの化石標本を展示。これをモチーフに色とりどりのミニのぼりを作りました。前沢にクジラがいたらどう思う？の問いに、参加した男の子は「お肉を食べてみたい！」とちゃめっ気たっぷりの笑顔を見せていました。

みざさわ 土と触れ合いみんなで交流
認知症支援ぬくもり隊「ぬくもり農園」苗植え

認知症の人とその家族を支援する市民ボランティア組織「認知症支援ぬくもり隊」は5月27日、水沢区真城の畑で農園づくりを始めました。誰もが集い交流できる農園を目指し、隊員や地域住民、市地域包括支援センター職員など11人が参加。長ネギとサトイモ、サツマイモの苗を植えました。今後、7月にエダマメやニンジンなどの種まきを行い、10月には農園から収穫した野菜を使った「のんびり青空レストラン」を開く予定です。



みんなで作業すると自然と笑顔が生まれます

いさわ 自然と遊びがもりだくさん
森林の遊び場「ノームの森」がオープン



陽光差し込む森の中、フランク遊びを楽しむ親子連れ

胆沢区小山字龍ヶ馬場地内に5月31日、「ノームの森」がオープンしました。子どもたちが遊べる森を作りたいと、ことしからノームの会（佐々木ケイ子会長）が整備を開始。これまでにウッドデッキや遊歩道の一部が完成したほか、手作りのブランコなどの遊具が設置されました。オープンに合わせ、しおり作りや竹の食器作り、3種のクルミの食べ比べなどが行われ、多くの子どもたちが参加。水沢区の岩館美桜ちゃん（4）は「これが一番おいしい」とヒメグルミに夢中になっていました。ノームの森はこれから3年をかけて内容を充実する予定。佐々木会長は「子どもだけでなく高齢者などの交流の場にもしたい」と将来の展望を語りました。

みざさわ 見て触れて環境を考えよう
みずさわエコキッズ開講

本年度のみずさわエコキッズ事業が5月17日、水沢区黒石町の黒石自然体験交流館こぐりん付近での田植えを皮切りにスタートしました。古代の流れ源流網代滝を守る会（及川進二会長）の協力で行われる同事業。初回は水沢区の小学2～5年生13人が参加し、田植えのほかタケノコ採りや畑作業などを体験しました。真城小学校4年の渡辺和羽君（9）は「田んぼは冷たくてぬるぬるして大変だったけど、また入ってみたい」と笑顔を見せていました。



初めての田植えに挑戦！



手洗いを介助する高校生に「ありがとう」と感謝の言葉が

みざさわ 看護の心育む触れ合い体験
ふれあい看護体験

総合水沢病院のふれあい看護体験が5月14日、同病院で行われました。看護週間に合わせた体験事業に、県南地域の高校生22人が参加。血圧・脈拍測定や車いすの模擬体験のほか、実際に入院患者の食事や足浴の介助を行い、触れ合いを通して看護の現場を体感しました。岩谷堂高校3年の千葉真依さん（17）は「こういった体験はあまりないので良い経験になった。将来の夢に向けて役立てたい」と目を輝かせていました。